

## 農業者と農業委員会との意見交換会

日時：平成28年2月28日（水）13：30～

場所：南丹市役所2号庁舎 301会議室

1. 開会
2. あいさつ
3. 自己紹介
4. 意見交換  
テーマ  
（1）営農の現状と課題、将来ビジョンに関する行政機関や農業委員会への期待  
（今後必要とする農業施策の提案 等々）
5. 閉会

**農業者と農業委員会との意見交換会  
参加者名簿（敬称略）**

1. 農業者出席委員

下間 康広	堤 博明	児島ひかる
綿井 庸裕	中谷 文彦	谷 学
富沢 崇志	中村 有光	谷口 成生
中島 勲	篠山 直也	

2. 南丹市農業委員会農政部会出席委員

1 番 上田 純二（部会長）	2 番 野村 健（副部会長）	4 番 梅津 義明
5 番 木村 裕	7 番 人見 保夫	8 番 宇野十三治
9 番 長野 敏	11番 平野 清久	13番 徳山 憲司
14番 田中 忠夫	15番 高屋 恭久	16番 高屋 安男
17番 市原 松司		

3. 南丹市農業委員会農政部会欠席委員

3 番 松本 國夫	6 番 小林 義雄	10番 麻田 次男
12番 大沢 泰一		

4. 南丹市農業委員会農地部会出席委員

18番 坂本 宗

---

## 午後 1 時 3 0 分開会

○事務局 定刻になりましたので、ただ今から農業者と農業委員会の意見交換会を開催させていただきます。

農業を取り巻く情勢につきましては大変厳しいものがあり、農業者の高齢化や新たな担い手の確保ということについては、もう言うまでもなく長らく言われておることでございます。

昨年については、T P P の大筋合意を受けての国内対策や、また米価の低迷など、本当に厳しい状況になっているわけですが、今日は日頃思われていることなど、また将来に向けてのお考えなどをお聞かせいただきまして、本日の意見交換会が実のあるものにしていただきたいというふうによりしくお願いしたいと思います。

それでは、これ以降の進行につきましては、上田農政部会長様のほうによりしくお願いしたいと思います。

本日は大変御苦労さまです。

○農政部会長 失礼します。皆さん、大変御苦労さんでございます。本日はお忙しいところ、農業者の方には、農業委員との意見交換会ということでお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

本日、進行係をさせていただきます農政部会の上田と申します。どうぞよろしくお願い致します。

南丹市農業委員会では、これまで農業者の方との意見交換会を3回実施してまいりました。農業者の方の生の声をお聞かせいただくことによりまして、今後の農業委員会の活動を生かしまして、また、南丹市の農業振興につながればと考えておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、意見交換会に入らせていただきますが、ちょっと職務代理のほうから開会の挨拶ということがございますが、若干遅れるということですので、来られ次第、皆さんに御挨拶を申し上げます。どうぞよろしくお願い致します。

続きまして、本日オブザーバーとしてお越しいただいております方を代表いたしまして、南丹市農林商工部の渡邊部長より御挨拶をいただきます。

○渡邊オブザーバー 皆さん、改めましてこんにちは。南丹市農林商工部長の渡邊でございます。

本日は、農業委員会と農業者の皆様の意見交換会ということで、今司会の上田部会長からもありましたように、忌憚のない意見を出していただく中で農政のほうへ反映していけたらと考えております。気楽な雰囲気でお意見をいただけたらと考えておりますので、よろしくお願い致します。

○農政部会長 ありがとうございます。

それでは、自己紹介へと移ります。梅津委員さんのほうから時計回りで自己紹介をお願いいたします。

○梅津委員 それでは、失礼します。美山町からお世話になってます、梅津と申します。今日は、皆さん農業の専門家の方ばかりですって、私どもはどうのこうの言うこともないと思うんですけども、勉強させてもらって、また明日からの行政のことに反映させて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○木村委員 続きまして、農業委員会の木村と申します。

去年の7月に委員に初めてさせていただきました。出身といいましょうか、受け持ちは園部町の中の黒田、横田が中心なんですけれども、村では農業組合法人黒田営農組合というのを立ち上げて、その会計やっておりますが、計算ばかりで、私余り作るほうはあてにされてない、そんな状態です。今日は農業者の皆様方、比較的若い方がお越しいただいておりますので、心強いなと喜んでおります。本日はよろしくお願いいたします。

○野村副部長 副部長の野村健と申します。住所は園部町でございます、本日は皆さんから日々の御苦勞、あるいは課題等々、生の声をお聞かせいただいて、今後に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○人見委員 農業委員をさせていただいております人見保夫と申します。八木から来ています。知った人も中にはおいでになりますが、若い顔ぶれで南丹市もこれからやなと思っております。よろしくお願いいたします。

○宇野委員 毎度すいません。私この7月から新規に農業委員をさせていただいております。主に胡麻地区で、東胡麻と西胡麻地区を担当させていただいております。何も農業委員といいましても、全然わかりませんので、ここで勉強させていただきまして、また持って帰って勉強していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。宇野と申します。よろしくお願いいたします。

○西村オブザーバー オブザーバーで参加させていただいております西村と申します。私は農業会議のほうで、農業委員会と農業会議、橋渡しというか、現地駐在員みたいなことでお世話というか、勉強させてもうております。地元、家は園部町大西で、児島さんとか下間さん、堤さんの近所で営農をさせてもうて、法人化を去年からして、この農業委員会だよりも取り上げていただきまして、中間管理事業で農地集積、うちの集落で50をちょっと超えたところで、そんなことも庶務的なことをやらせてもうてます。よろしくお願いいたします。

○富沢氏 こんにちは。日吉町の上胡麻と殿田地域で、2カ所で施設栽培と露地栽培をしています富沢と申します。前にも一度参加させていただいたんですけども、また今回もいろいろ意見を交換させてもらって、ぜひとも農政に反映していただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○中村氏 日吉町の胡麻から来ました中村です。新規就農したときが50歳で、そのときはまだ若かったんですけど、67になりまして、今皆さんの顔を拝見しますと、お

若いなということで、1人だけ私がちょっと飛び抜けてるんじゃないかなという気がして、ちょっとこの後、発言いろいろ、歳とったそういう経験上の何か、皆さんにお伝えすることがあればいいかなと思っております。よろしく願いいたします。

○谷口氏 失礼します。日吉町の谷口です。このような場所は初めてなんですけど、農政部会では毎月勉強会がされてるそうで、そこらへんの積み上がった話をお聞かせ願えればありがたいと思っています。専業農家で一年中農業やってるもので、余り農政のほうにはわからないことも多いと思いますが、よろしく願いいたします。

○中島氏 すいません、美山町から来ました中島と申します。主に養鶏と水稲ということで、まだ農業をさせていただきましてから、まだ15年ということですので、勉強させてもらうつもりで来させていただきました。どうか、よろしく願いいたします。

○篠山氏 すいません、美山町から来ました篠山です。肉養鶏の生産を主としてまして、趣味で養豚をちょっとしてるような感じなんですけれども、ちょっと一番最後に入ってきてしまい、大変申し訳なかったです。また、今日はよろしく願いいたします。

○長野委員 大変御苦労さまでございます。美山町から来ました長野と申します。私美山町でも知井地区で、河内谷、江和以東ですね、東側です。南丹市で一番端の地域です。そっちを担当しております。私の地域は限界集落を越えまして、もうしばらくすると絶滅するんじゃないかという、そういう集落で、万年農業組合をしております。それから、最近、そういう耕作できない方がどんどん増えてきているという現状、その農地をどうするかということで、今現在、大変頭を悩ましている次第でございます。また、いろいろそういう山間へき地で農業何かないかなと思ってね、ちょっと私も悩んでるところですので、きょうは皆さんの意見いろいろ聞かせていただいて参考にさせていただきたいと思います。どうかよろしく願います。

○平野委員 失礼します。園部から出させていただいております農業委員の平野でございます。市の職員を退職してからは、カブラと米を中心に農業をしています。よろしく願います。

○徳山委員 失礼します。八木町選挙区から出てます徳山といいます。担当地域は神吉のほうを担当しております。私、昨年7月から農業委員になった新任の委員ですので、ちょっとわからないことも多いかと思っておりますけれども、本日はよろしく願いいたします。

○田中委員 こんにちは。今日は大変御苦労さんでございます。私は園部地区から選出されております。昨年7月から、何分初めてなもので、ようわかりませんが、今日は皆さんの御意見、よい話が聞けると思っておりますので、よろしく願いいたします。

○高屋（恭）委員 高屋恭久と申します。こちら高屋安男さんってよう似たような名前です。高屋恭久と申します。八木町の西田、観音寺地区を担当させていただいております。去年の7月から農業委員させていただいてるんですけども、まだ勉強しておりますけども、勉強すればするほど難しい問題がいっぱいあって、行き詰まったりしますけども、今日は1つ勉強も含めてよろしく願いしたいと思います。

- 高屋（安）委員 失礼いたします。園部町出身の高屋安男と申します。私も昨年の7月に就任いたしまして、お世話になっております。瓜生野、新堂、熊崎、曾我谷、千妻の地域を担当しております。今日はいろんな意見を聞かせていただいて、また今後の施策に反映していきたいなというふうに思っております。よろしく願いいたします。
- 市原委員 市原と申します。八木の旧吉富村の半分ですね、吉富小学校から園部よりの6地区を担当しております。御存じのとおり、9号線と山陰線が走ってるところでして、9号線周りは開発許可を受けてるんですけど、いろんなものができているということで、農業委員としては非常に個人的に何というか、悩んでるというか、難しいところだなと思ってます。農業委員としては、農業振興が目的なんですけど、そういうところで見ると、結果的にいうと、要している、要にそういうものができてるわけじゃなくて、個別に開発許可を受けてできているというので、非常に中途半端だなというふうに正直に思ってますので、また、よろしく願いします。
- 坂本委員 皆さんこんにちは。私、皆さんと、ほかの委員さんと違いますのは、農地部会いうて、農政以外の関係の取り扱いをしてます。その中で私きょう寄せていただいたんは、私の地域、美山町の平屋地域を担当しとるわけですが、その地域が美山町の中でも荒廃の人が作付、不作付の土地が一番多いということで、この土地を何とか、農地は農地として守るような形で勉強したいと思ひまして、きょうは寄せていただきました。皆さん、よろしく願いします。
- 谷氏 失礼します。八木町の池上から来ました、酪農専門でやってます谷と申します。よろしく願いします。農業委員さんには平素からいろいろとお世話になって、本当にありがとうございます。きょうは、私みたいな者が何を言えるかわかりませんが、自分の思いをできるだけお伝えできればなと思っておりますので、どうぞよろしく願いします。
- 中西氏 失礼します。南丹市八木町でやっております中西と申します。僕はまだまだ知識も技術も浅いので、何もわかりませんが、今日はこのような機会を与えていただきまして、いろいろな方々の意見等を聞かせてもらって、勉強させて帰ろうと思っております。よろしく願いします。
- 綿井委員 失礼します。八木町の神吉で施設栽培、ミズナ、九条ネギ、ナス、トマトをさせてもらってます綿井といいます。本日はよろしく願いします。
- 児島氏 失礼します。園部町の船坂というところで、昨年の秋から就農させていただいて、施設と水稻、1ヘクタールぐらいなんですけれども、やらしてもらってます児島と申します。今日はちょっといろいろ勉強させていただきたいと思っております。よろしく願いします。
- 堤氏 すいません、南丹市園部町仁江で露地栽培と施設栽培をしてます堤博明と申します。今回、この意見交換会に呼んでいただいたことはうれしく思いますし、その中でいろんな意見を出し合って、南丹市、京都府内の農業の発展につなげたいと思ひますので、

その辺で貢献できるように、また頑張りますので、よろしくお願いします。

○**下間氏** 失礼します。園部町南八田というところで農業させていただいてます下間康広と  
います。僕も農業初めて既に13年ほどになるんですが、まだまだ僕もわからないこ  
とばかりありますので、きょうは皆さんの意見を聞かさせていただいて、いろいろ勉強  
をして、いい会になったらいいなと思いながら参加させていただきます。よろしくお願  
いいたします。

○**農政部長** ありがとうございます。

それでは、自己紹介が終わりましたので、早速意見交換と入りたいと思いますが、ま  
ず皆様に連絡させていただく事項がございます。1点目は時間的に全体で2時間程度を  
考えております。2点目は、この意見交換会の内容につきましては、後日南丹市農業委  
員会のホームページで公表する予定としておりますので、御了承のほど、よろしくお願  
いします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、前回出ました意見に対する現時点での対応施策につきまして説明を渡邊部長か  
らさせていただきます。

○**渡邊オブザーバー** それでは失礼します。

前は平成26年の2月17日にこのような形での意見交換会を開催いただきまして、  
私のほうも、そのときに本日と同じようにオブザーバーという形で参加させていただ  
いておりました。その中で、主な意見といたしまして6点ほど出ておりました。その内容  
について、今司会の上田部長さんからありましたように、今の範囲での市からの今後  
の方針なり回答について説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず1点目といたしまして、農業で安定した収入を得るのは難しいという、  
この昨今の課題ではございます。それと、技術面だけではなく、この間の平成25年の  
台風18号、26年の台風16号、11号などのことを考えますと、災害が起きると復  
旧への労力が多大であって、次の営農にも意欲がやっぱりそがれるというような意見が  
出ておりました。その中で今後の方針ということなんですけども、御存じのように、国  
におきましては、農林水産分野におけますTPP対策といたしまして、努力が報われる  
農林水産業の実現へ向けてということをテーマに農政の新時代に向けて、生産者が持つ  
可能性と潜在力をいかに発揮できる環境を整えることで、次の世代にも日本の豊か  
な食や美しく活力ある地域を引き渡していくということを掲げております。国の動向を  
注視するとともに、農業者の所得の確保に向け、協働と連携を図りながら、具体的に要  
望していかなくてはならないというふうに考えております。昨年10月には、近畿農政  
局に地域にセンターが設置されました。そこに地方参事官が配置されまして、現場と農  
政を結ぶための相談業務を担当し、また、地域農業のコンサルタントとして農政改革を  
現場で推進することとなっております。ぜひ機会を設けまして、このような農業者さん  
の直接の声が聞けるような取り組みができればと考えております。参事官のほうは、国

の直轄の立場で現地、いわゆる現場での意見を聞くという取り組みにもなっておりますので、呼んでいただければ、こぞってそのところに参加したいということもおっしゃっておりますので、どこかで農業委員会事務局と調整しながらそういう場が持てたらなというふうに考えております。

2点目ですけれども、集落営農組織が地域にはあるんやけども、10年後、集落に何人の担い手が残っとなるのかというような、やっぱり今最もの課題となっております。今の南丹市におきましては、今の認定農業者数、集落営農組織も含めまして、法認定で74、地域認定で43となっております。合わせて地域で認められて将来の認定予定者も含めまして、認定、担い手を明確化し、それに支援を行い、経営強化を図ることが必要であるというふうに考えております。また、農業従事者の高齢化がもうかなり進んでおりまして、新たな認定農業者の育成に努め、農地の流動化を推進する必要があります。しかし、認定農業者だけで本市の農地保全、農業振興が図れるものではないため、集落の組織から他産業退職者が、団塊の世代等の専業農家へのことも含めまして、幅広い農業従事者の確保、育成も必要であると考えております。南丹市全集落数153あります。その中で中核的な、本格的に営農いただいております担い手が不足しています集落が66あります。そういった集落では、将来にわたって地域農業を維持することが困難であるというふうな声がよく聞こえてまいっております。一方、認定農業者や集落営農組織の担い手がいる集落は87であります。農地の利用集積や京野菜の産地づくりが進められておりまして、今後の地域農業の維持、発展を図るためには中核的な担い手が不足する集落と、集落営農組織を発展させた集落型農業法人が農地の利用集積や栽培契約を行うなどの連携に取り組む中で、売れる農業づくりに取り組んでいかれる必要があるというふうに考えております。

3つ目といたしまして、畑作の場合、獣害対策は年中必要でありまして、個人だけでは対応は大変厳しく、抜本的な解決策はないかというような質問を受けておりました。本市におきましては、鳥獣害被害対策については、鳥獣被害特別措置法に基づきまして策定しました鳥獣害防止計画によりまして、鳥獣捕獲檻及び鳥獣被害防除柵の設置により対応しておるのが現状でございます。その中で出ておりました個別対応については、なかなかうまくいっていないのが現状であります。被害の現状といたしましては、平成24年度の被害面積477.7ヘクタール、被害金額にいたしまして5,593万8,000円、平成25年には被害面積447.1ヘクタール、被害金額5,300万9,000円、平成26年度集計しました最終のものでございますが、被害面積として445.4ヘクタール、被害金額5,507万5,000円となっております。市が把握する被害内容では、横ばい状態で今推移してきておるのが現状となっております。

4つ目ですけれども、いわゆる堆肥のことでの御意見をいただいております。現状の堆肥センターの稼働率、これ八木のことなんですけれども、120%の状況で、規模拡大を考えての堆肥消費のすべがなく、市全体での堆肥者ですね、の有効活用の施策の構築を



というような御意見いただいております。御存じのように、堆肥化につきましては、各旧町で独自の取り組みをいただいているのが現状でございます。南丹市といたしましては、昨年10月30日に、国の7府省、内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の7府省でございますけれども、その分でバイオマス産業都市の認定を受けることができました。今後も循環型農業の推進を行う上で、市全体の取り組みとして堆肥化を検討することも重要であるというふうに考えております。バイオマス産業年の取り組みの中で具体化ができたというふうに考えております。

5つ目ですけれども、今課題になっております6次産業化への思いはあるが、課題として人手不足、販路の確保、情報収集など問題が多く、個人では限界があるというような御意見を賜りました。現在、本市におきましては、農業ビジネスセンター京都、通称ですけれども、京都アグリ21と連携しながら事業を推進しておりますけれども、残念ながら6次産業化との課題が大変多くありまして、実際のところ本市においては、事業取り組みができていない状況となっております。国の施策ですね、攻めの農林水産業への転換の中で雇用と所得を確保し、若い子どもや集落にも定住できる社会を構築するため、農林漁業生産と加工販売の一体化や地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、6次産業化を推進するというふうに国のほうでは進められております。本市におきましても、6次産業化の取り組みを推進するため、各市町で作らなくてはならないんですけれども、6次産業化の推進戦略を策定しなくてはならないというふうに考えておりますので、28年度にはその辺のところを打ち出していきたいというふうに考えております。

最後になりましたけれども、6番目といたしまして、農家同士が交流できるような市全体のネットワークを構築して情報交換が行われる、また必要だということで御意見をいただいております。農業委員会で本日開催していただいておりますような内容も含めましてですけれども、初めには認定農業者の方々や集落営農組織、また新規就農者を中心としたネットワークを農政課のほうで平成28年度において立ち上げを行っていききたいというふうに考えておりますので、その節には御協力のほどよろしく願いいたしたいと思っております。私のほうからは以上でございます。

○農政部長 ありがとうございます。ただいまの説明を含めまして、農業者の方から御意見をお伺いしたいと思っておりますが、多数御出席いただいておりますので、旧町単位ごとにお話をお伺いさせていただきます。その後、農業委員さんの意見を伺い、最後にオブザーバーとして出席いただいている部長さんから意見をお伺いするという形で進めていきたいと思っております。

それでは、本日の意見交換の内容であります御自身の営農に関して、現状と課題や、また、将来展望についてお話していただき、それに向けてどのようなことを行政や農業委員会に期待されるかといったようなことをお聞かせいただきたいと思っております。

それでは、まず前回にもお世話になりました八木町で営農されておられます綿井さん、中西さん、谷さんをお願いいたしたいと思っておりますので、綿井さんの順番によろしくお願

いたします。

○綿井氏 失礼します。綿井です。

うちの場合は、施設でだけ野菜を作ってるんですけども、神吉という地域でやらしてもらってるんですけども、地域としては若い担い手がまだ比較的多い地域になってまして、Iターン、Uターンを含めて50歳以下の人が8名、今現状でいる状態です。その若い、僕も含めてですけども、規模をやっぱりこれからは拡大して行って、経営を成り立たないといけないんですけども、そのために神吉はちょっと寒い地域なので、施設栽培でしかちょっと経営が成り立たないということで、ハウスで作っているんですけども、ハウスの新設って、やはりかなりコストがかかってくるんで、今あいてるハウスが各地域に結構あると思うんです。そういうのまた情報もらって、取り壊して移設できたらなっているのが思いとしては1つあります。

あとは、規模を拡大するに当たって、人を雇うということにしていけないと大きくはならないと思うんですけども、そのパートさんをどこから集めるのか、今うちの場合は来てもらってるんですけども、地域の方に来てもらってるのと、あと僕の嫁の友達とか、そういう身近なところで集めるしかない状況なので、この農業に関心があるというか、パートをしたいなというような方を、ちょっと集め方がもう一つ、個人でしかわからないんで、そういうのがわかる場があればうれしいなという思いがあります。

あと、個人的には、マイナンバーが始まりましたんで、ちょっとその取り扱い方が、今年はまだあれですが、来年度から運用が始まると思うんで、パートさん来てもらってる関係上、マイナンバー絡んでくると思うんですけど、いま一つマイナンバーについて勉強不足な点もあるんですけども、理解し切れてない部分があるので、そういうのを理解というか、教えてもらうような場所があればありがたいなと思っています。僕からはそのぐらいです。

○農政部長 ありがとうございます。中西さんお願いします。

○中西氏 僕は酪農と水稲と施設野菜をやってるんですけども、酪農のほうからなんですけど、とりあえず、今は現状維持ということで、この3つのうちで増やしていけるとしたら、やはり水稲のほうなのかなと思っております。うちは全て家族経営なので、人力的にも限られてくるんですけども、今水稲で3町やっておりまして、これから10年後とかいってしまうと、若手が、先ほども言われていたんですけども、いないということで、やっぱり田を頼まれる、頼んではる人がいはるんですけども、うちでやれども、あと2町ふやして5町ぐらいがやっぱ限度かなと思ひまして、それも、とりあえず基盤整備のできているきれいな田んぼを、言葉悪いですけど選んでやっていくというふうには、ちょっと今のところ、現状的には無理なので、西田というのはいっぱい前島と北島というところで、やっぱり進んでるところと進んでないところがあるんですけども、やっぱり進んでないところには、やはり手を出しにくいというのがありまして、今現状でも企業さんというか、会社の方が入ってきたり、あと農業公社の方とか、あと

京都からわらを取るためとかで入ってきはる人がいるんですけども、現段階では、地域の人は余りそこを借りてやります、米つくりますというふうにはならないのは、多分現状だと思います。やはりそこが一番のネックかなとは思っております。以上です。

○農政部長 谷さん、お願いします。

○谷氏 すいません、私は2年前にも出させてもらって、酪農のほう、自分の経営的な要望としましては、正直もう牛舎がいっぱいでして、牛がいっぱいです。それで私の思いとしては、やっぱりもうかる農業したいんで、資金的な面もありますが、私はまだ牛舎を増やしたいというふうに考えておるんですけども、さっき渡邊部長もおっしゃったように、まだ市のほうで八木のバイオエコロジーセンター、維持していただけるようなんで、そちらとの兼ね合いもありますけれども、可能であれば牛舎を増築というか、大きくしたいと思っておるんですけども、ただ、周りが圃場整備中でして、もう間もなく換地なんですけども、その辺の土地を何とか、自分で言うのも変ですけど、担い手というか、若手というか、規模拡大の意図がある者に、何とかうまく農業の規模が拡大できるようなふうにしていただけたらうれしいなというのが、正直、私個人の勝手な思いです。もうちょっと増やして、ちょっと農業も儲かるんやでというのを若手に魅せられたら、また就農してくれる子も増えるのかなという思いがあって、せやし、ちょっとそういうふうな、夢があるような感じの農業をしたいというのが僕の思いです。

全体的な要望としましては、私も地域の農事組合法人の会計させてもうとるんですけども、正直あと10年後に、この、うち30町ぐらいしかないんですけど、池上という地域は。それすら、一体、これ誰が一体作業していくんやろ、法人立ち上げたはええけど、今65歳から70歳ぐらいの人きぼってやってくれてはるけど、この人らあと10年したらできひんよなと思ったときに、法人は立ち上げたけど、一体誰がこれ作業してくれんねやろ、みんな今40代、50代の人いうたら、兼業農家の人が多いんで、これどうするんやろなと思いながら、うちのおやじ世代の人が、コンバイン買うと言って補助金もらって調子よくコンバインを買うんですけども、これ一体、だれが10年後動かすんやろ思って、乾燥機、誰が一体こんなようけ使ってやれるんやろってなって、預かる田んぼの分ずつ増やしていかはるんですけど、これ誰が一体田植えすんのんっていう話ぐらいのことになってきておって、せやし、やっぱり富沢くんとかいはるけど、新規就農者の人をうまく受け入れてもらうような仕組みを市にもつくっていただいて、正直空き家とかも出てきてると思うです。地域とのかけ橋をね、新規就農者の方の、地域の行事もやっばうまくなじんでもらわんと、やっばぽっと入って就農するというのは、なかなか難しいと思うんで、その辺を農業委員さんの方もうまいこと、住む家と、経営をする農地とを提供してあげて、新規就農者を増やすというんですかね、初めは丹後のほうでやってる、農業塾みたいな感じでもいいんで、最初ほんならこういうふうに、1町貸してやるから、ここで田をすけよとかいうような形にして、新規就農者を増やしていただけたらわんと正直、今ここにはたくさん若手の人がいやはるんですけど、それでは南

丹市の土地全部は見きれへんと思うんで、何とか策を講じて新規就農の仲間が増えていったらいいなというのは私の思いです。

○農政部長 ありがとうございます。

今八木町で営農されている3名の方にそれぞれお話をお伺いしましたので、農業委員さんの皆さんから何か御意見があれば、出していただけたらうれしいと思っております。

○農政部長 この前、亀岡のガレリアであった講習会で、講演がありましてんけど、そのときにハウスの、今出ましたけど、古いハウスがあちこちにたくさんあるんで、それを、これ奇策ですけども、中古ばかりを集めて、確か福知山の方やと思いましたが、そういう形をそういうことは聞いてきましたんで、南丹市もそれは同じことが言えると思っておりますけど。

○綿井氏 農協や普及センターなどへ頼んでは、言いには歩くのしてですけども、やっぱり丁重に渡せないのがありますし、身近なところはやっぱりもう、声を自分たちでかけたりしてるんで、もう僕たちが目の届かないところの話を持ってきてもらったりしたらありがたいなと。結構新しい新規の入った人たちも、僕らの知ってるこの辺りでやめはった人を声をかけてそのままただで、こっちで潰して持ってあがって、そこでたててというのを今しておるんですけども、それではちょっと数が、今の現状では足りない状態にあるんで、南丹市だけでなく、さっきも言うたはりましたけど福知山の人もいろんなところから声かけて取りにきてはるんです。いろんな業者に声をかけたり、僕たちはただで潰してただで持って帰るということをさせてもうてて、多少お金を払って引き上げたり、やっぱりお金に多少なつたほうが、やっぱりその農家さんもあれやし、言わはるとこに田さはったり、鉄くず屋が取りに来たり、今金属売れるんで、潰して持って帰ってっていうこともしてるみたいなんで、できれば南丹市の分は南丹市で回る、福知山に行ってしまうと、南丹市が行ってしまう、もう戻ってくるは多分ないんで、南丹市内で回せたらありがたいなというのが僕の意見です。

○農政部長 わかりました。同じ八木の方で、皆さんよりは年をめしておられますけど、人見さん、よく御存じやと思えますけど、たくさん農地、水稲頑張らせてされておりますので、ちょっと参考になるかならんかしりませんが、ちょっと人見さんのほうから何かあれば、お願いします。

○人見委員 八木の氷所ですもんけんけど、おたくらも頑張ってくれてるのはよう知ってます。毎日見とるんですけど、お互い酪農もですけども、米作りもなかなかこの集落でできんようになってきてとるんや、これ。周囲の人の苦情いうのんか、嫌がらせでもないんやけんけども、そういうな厳しい環境がどんどんと迫ってきて、農業をやるのにやりにくいのが現状やと思えます。若い人も来てはってやってるからわかるんやけども、いろんなことで、本間これ、農業でも考えておるもんけんけど、これ昔からやとる、そこにおるもんやったら強みもあるし、わかるんやけどそういうわけにもいかんねや。気をはるうてやとるで。やとってても、若い人は、そういうことに携わってへんから知らへ

んのや、こんなもんやなって文句ばかり言うんや、実際に。もう八木でも農業しとつても10時から乾燥機が動かせんところがあるんや。集落によつても。氷所でも10時からでもとめてくれて言うて言われてやめとる人も二、三人あんねや。そういう環境に難しなつてきとるさかいそういうところから第一に打破せなあかんねんなど日々思つとるのと、神吉で施設農業をやってくれてるのもようわかつて、聞いとんねんけんども、神吉では足らんぐらいか知りませんけんども、私のいとこが久御山におるんやけど。そこんところはもうハウスが何ぼでも余つてるんや。農業する者もおらへんのんや、若い人は。そういうようなことを言うて、農協に頼んで言うておいたら、そういうところから施設を安くちゅうか、なんとかもらえる可能性はあると私は思つとるんや。何ぼでもあいとるんでやるんやったら言うとつたわ。そこは、ネギと野菜と、ほとんどはネギやとんねん。ネギを1人で2町ほどやって、ほいでから、ハウレンソウと苗をしとる。それが忙しいらしいわ。する人があらへんから言うて、もう今ぐらいやったらナスビの苗をして、1月からお休みして四国一周かなんかするんや言うとつたわ。9月頃まで苗作りして忙しいんやけどこのところも。あらへんねやそんな人が言うてたけんども、そういうところにそういう材料は余つとる可能性は十分ある。多分なそういうなことはまた聞いといて、農協の産業課とか、そういうところの人にまた言うたるけんども、言うて、そういうなことも手配したらええなと思つとるのと、そして、この人がないって、ないなわ、お互いに。私もそれ知らへんねんけど、この間亀岡で、ガレリアで何の寄合やつたかな、部長が言うとつたように会合あつたんや。そのときに福知山か綾部の人やつたかが体験発表したって聞いとつてん。わしもそんなことがあんのかなと思つとんだけんども、農業大学みたいなんあるわな、試験所とか、そういうところいたら人を回してくれるみたいやわ。そこ2カ所は、そんな人を入れて、ほいで、そこへ住み着いてくれて、その法人とか会社とかやってるところの従業員になつたりするようなことをして、若い子がするようなことを、一緒に来とつた人は言うとつたんで、わしもそういうなとこで借りたらええんちゃうかなと、言うたらあるのかなと思つて、もういろんなことをこの間亀岡で1つ覚えてきたけんども、そういうことと、この久御山あたりは、中国人か知らんけど、そんな青年を雇うとるわ、ようけ、来るわ。普通の農家ではなかなかできへんけんども、会社とかは、担い手が欲しいんやったらそういう人は、あれどういふところが人をあつせんしてくれんのかな、普及所とかに言うたらしてくれるのかなどういふことや。

○綿井氏　そういう会社があります。

○人見委員　会社、その派遣会社があるのか、そういうの。そういうところから若い子が手伝うとるって言うてた聞いてたら、そういうな人を雇うてると。そら安く上がるわな。ほいで、近くでも来てくれとる近藤さんいうて、専業農家やとる人あんねんや。そこも二、三年前やけど、若い子がどこかから農業教えてくれって言うて、来る人がおんねやとか言うて、1人か2人来て仕事しとつたこともあるねや。そういうなこともちよつと研究したらあるのじゃないかなと、私はこの間行って初めて思ったねんけんども。そう

でなかったら、よっぽど覚悟しとらんことには、百姓やっていけへんねん。これまでの農業ぐらいやったら、機械がだんだんと大型化してきただけ、私も途中からやってけんど、まだ10年ほどしかならへんけんど、そこからずんずんと始めていって、その間に仕事を、その集落でしとったら、何か隣の人が頼みに来るんや。ほんな、もう嫌とも言えへん、ここしとってこれはあかんと言えへんし、1日来たらええわ思っしてとると、どんどん、どんどん頼んでくるで、もうまえへんようになつとんねんちょっと考えなあかん、やっぱ百姓も勉強しなあかんねん、本間のところは。私も去年ぐらい、正月頃から考えとったんやけんど、百姓はもうからん、もうからん言うとったらあかんねや。米3,000円なつても、3,000円の米でもうかる3,000円の米をこしらえたらええねや。この正月に組合長しとる泰宏さんと新年の挨拶行って話しとったんやけんど、もうかることはあると、百姓は。そう言うてくれたんや。今ほんなら飼料米してくれと。他の米は食料用の米はいらんのや。余つとるさかいかなわんのや言うて話しとったら、ほんならまた4、5日経ってちょっと来てくれへんかってことやって、もう機械3台持って帰ってん京都府にな。その機械を1台入れたいんや。何とか言うて、ほんなんやったら氷所でしょうかと生産組合の組合員をちょっと納得させたんや。そして、入れる段取りはしとるけんど、ほいで、それで自分とこの機械でやれば、時期にその機械代ぐらいは上がってまうというようなことで、ちょっと勉強できんことには人ばっかし頼つてもうからん、もうからん言いよったらあかんねやわ。わしはこの正月に寝とって、そういうことを考えとったんや。何とか、ほんでほかの職業でもやとったら、何とか自分のやつとる仕事で、下請の人やったら、それでもうかることを考えてやるんや。やっぱ百姓やって。わしも途中からやったけんど百姓したら、できるだけ田以外やたらもうかつとるんや。いったらいっただけ人件費がかかる思っして、1日行ったら、一日以上の仕事して帰ってきたら、1日でも2日したら1日見ておるみたいなものやとつたらええもの、年とってたらそんなことはできひんけんど、そういうことを日々思っしてますんで、そこらんとこ、若い人研究してもらって、そういう施設があつさり、そういうところにちょっと頭を突っ込んで考えてみたら、人やらは回してくれるし、またそういうところで大学なんか勉強・・教えてくれるんやないか思っしてます。そういうことです。

○農政部長 ありがとうございます。また、それ参考にさせていただいたらうれしいと思っしております。

○木村委員 お三方、いずれも規模拡大の思いをお持ちながら、なおかつ新規就農の方もたくさん集まってほしいなという思いお聞きしまして、大変心強いなど、夢があるなど思っして関心してたんですけれども、これからのこの農業者、農業の担い手、1つは、いずれも皆様、認定農業者の方々だと思っしますけれども、個人で規模を拡大されるのと、一方で渡邊部長の部長の説明にありましたように、集落で頼つてる部分がありまして、実際に谷さんのとこも農事組合法人なさつてますので、集落の農家がこぞつて参加されるパターンなんですけれども、それつて本当に私のとこも同じことつして、先細りが目に

見えています。現役でばりばりでやっていただける人ってもう、上でいけばもう75がそろそろ怪しくなる。僕60ちょいですけども、僕まだ比較的若手。一番若いやつでも50ぐらいがもう下のほうですので、そんなんでもやってんですけど、ただね、この組み立てとして若手の方がよく持って2町分も5町分もしていただいている、この担い手の方々と、もう一つは、どう転ぶかわかりませんが、集落営農で荒地に任せてしまうのに歯どめをきかせておくのが大事やと僕思ってるんです。僕なんか、リタイアの世代ですけども、少なくとも、自分も含めてですけど、20年間農業できんのちゃうかなと思ってるんですよ。ほなね、それぞれ学校あがって若いにサラリーマンやっても、戻ってきて農業ができる人たちを迎えるためにも、そういう集落営農をきちんとしとくのが大事なっちゃうかなと。その中で何とかかんとかやりくりしとったら、次のエースが出てきて何とかなるのかなと思うのと、それから農事組合法人は、株式会社への転身も可能ですので、それはつないでおいたらそんな可能性もあるのかなというふうに思ってますので、私が今かかわらせてもらってます農事組合法人も、そんなに大もうけしてるわけじゃないですけども、ただ、地域の財産守ってるのは確実にそのとおりですし、その集落の中で農業できないお家が多々出てくる中で、うちのこの組合がそれを受け持って維持管理をここ20年ぐらいは必ずできると思います。そこから先エースが出てこなかったらあかんかもしれないけど、そういう組み立てが大事なのかなというふうに思ってます。

それと、僕は南丹市全体の問題、これは農政部会でもちょっと発言したことあったんですけども、農業経営にかかわって、何かの大きな目標というんですかね、南丹市全体、あるいはもう少し旧町単位で限ってもいいですけども、特産物づくりも含めて、何か1つの目標に向かって大きな流れができてくるような、そんなんがあんまり感じられへんなど。農業委員、7月なってからわずかですので、僕が知らんだけかもしれませんが、生産者と、その次に入ってくるような加工や製造の過程と流通と、それから小売りと消費のこの一連の流れにね、何か見えてこない、1つの流れができてないような気がするんですけどね。そういうものをしっかり組み立てることができれば、さあやるぞ、という雰囲気になってくると思うんですよ。それがなかなかできてないんですけども、ここを突破せんとあかんのちゃうかなと。そのリーダーシップどこがとるのかという問題はありまして、それはまたうちも頑張ってもらわなあかんかもしれませんが、農業団体だけでなく、JAが頑張らなあかんとか、あるいは、皆様方の若手の何かやろうぜという、そういう引っ張り方をさせていただくのも大事なっちゃうかなというなこともちょっと感じました。すいません、以上です。

○農政部長 ありがとうございます。農業委員の皆さんからもいろいろお話ししました。前向きな意見を聞かせていただきまして、本当に心強いなと思っております。やはり、いろいろな課題なり、たくさん出てまいりましたので、またこの後、渡邊部長さんからちょっとわかる範囲でまたできたらお願いします。

○渡邊オブザーバー 先ほど木村さんのほうからもありましたように、もう規模拡大を考えていただいております、大変ありがたいことだというふうに考えてます。初め綿井さんのほうからありましたように、ハウスの把握についても、各支所段階ではデータ取って、JAさんとの協力も得ながら、どこに何ぼのハウスがあって動いとる、動いてへんの確認はしとるんですけども、なかなか移築、移設までの取り組みになってないので、その辺少し精度が上げられたらいいのかなというふうに考えてます。

規模拡大する上で、人の確保がいるというふうなことで、園部なんかの場合は大学生、結構、そこの二本松のところの関係のところでは農業に興味を持った子とか、今日おられますけど、平野さんやら、ちょっと知り合いやらおらはったりということもあって、結構学生4年間おってくれる間に、ハウスとかの播種とかの作業、2回生なったらほとんど覚えてしまうとか、もう放っておいてもやるような子も出てくるようにも聞いてますので、その辺、1回声かけてみはたらなというふうにも思ってます。

マイナンバーについては、その辺また市役所のほうへ聞いていただいたら、基本的には、雇用主の関係でという縛りがあるんですけども、活用する上でどこまで使わんなのかというのは、その辺また企画のほうに担当がおりますんで、聞いてもらえたらというふうに思います。

中西さんのほうについての、やっぱり西田の地域での営農のやりにくさという、十分に理解しております。かなり昔の土地整理の中での営農ということで、圃場整備終わったところと比べてしまうと、問題があるのかなというふうにも考えております。

谷さんのほうからも出てましたように、牛舎を増やしたいということで、それはTPP絡みでリース事業やら、実施補給事業やらが出てきてますんで、その辺また相談していただいたらよいかというふうにも思います。

あと、新規就農の関係でちょっと言っていたとおったんですけども、今日も参加してもらってる人が何人かおられます。なかなか本腰を入れてやろうと思って来てる子なんか、今150万もらえるからやってみようかとかいうようなところのすみ分け難しいのと、これ、やっぱり先ほど谷さんのほうから出てましたように、地域でちゃんと水利のことも含めて教えてもらえる後見人がおられないと、やっぱりそれはうまいこと回らないというふうなことも思ってますので、その辺も含めて今まで通り、もうちょっとその辺、地域就農者の掘り起こしというところに目を向けていけたらなと思っております。

最後になりますけども、先ほど木村委員さんのほうから出てましたように、特色がなかなか出てこないという話になっております。これなんですけども、先ほどちょっと言わしていただいたんですけども、6次産業化等の取り組みというような中で、地域ですね、地域内にどのような作物がどのくらいの面積であって、いわゆる活用がどういふことができるんやといったような基礎的なことを踏まえて、南丹市が持ってます農業の基盤をもとに、どういうふうな作物を推進して振興すんねやというなことをやっぱり、い



ろいろあるんですけども、1つにまとめ上げたもんがないということもありますので、その戦略化の計画を28年度には立てて、その辺推進していかなければいけないというふうに思ってます。なかなかね、これもあれもあって、ほんだらどれがというふうなところで、今まで進めてきましたんで、特色を出すということが1つのキーになるのかなというふうに考えてます。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。それでは、時間の関係もごさいますので、次に日吉町で営農されている富沢さん、中村さん、谷口さんをお願いしたいと思います。富沢さんのほうからよろしくお願いします。

○富沢氏 富沢です。ちょっと先ほどの八木の方々に大分言いたいことを言ってもらったので、ちょっと僕から聞いてみたいなということがあるんですけども、まず、循環型農業という話があったんですけども、今南丹市のほうで伏見か何かの業者と一緒にバイオディーゼルか何かを作って、給食の運転、給食の配達の手とか、確か幼稚園のバスか何かに使ってるという話があって、バイオディーゼルのトラクターとか、そういったものでも使えるんじゃないかなと。ちょっと調べてたんですけど、なかなかホームページで、どういうところで入手できるというのは、業者から直接しかないので、それをちょっと、コストの面とかもあるとは思んですけど、もうちょっと僕らも、せっかくそういう活動されてるので、そういうのを何か入手できる方法とかないかなということと、6次産業化に関してですけど、今後どうしても皆さんつくっていくとかそういう分で利益乗せてくという話になるのかと思うんですけども、今ふるさと納税というのが結構あって、南丹市はどうやろうと思って見たときに、南丹市は特産物がお礼として配送しますって書いてあるんですけど、ほかの県とか市を見ると、幾らでどんなもんが選べますというような価値があるんです。南丹市は結構京都ポークであったりとか、個人で加工品やったりとか、そういったもので選べるもんとか、ほかの地域というか、ふるさと納税で外部のお金を南丹市のほうに入れてもらって、それをもうちょっと地域のほうに循環というか、戻していくにも価値にならないかなというのをちょっと思いました。以上です。

○農政部長 中村さんお願いします。

○中村氏 中村です。私が今農業をしている場所は、日吉町の胡麻の仲村という地区なんですけれども、この仲村は基盤整備されたのが30数年前になるかと思うんですけど、ほいで、その地権者と生産者が一致している田んぼというのはほぼないですね。あとはみんな誰かに委託して、私自身、実際その中でも4筆を委託されてるというか、やります。お借りしてやっています。ですから、数えたらもうほんと7割ぐらいが多分、生産者イコール地権者ということにはなっていないと思うんです。その反対だと思います。そういう状況の中で、今ソーラーというのが、発電が今かなりどこを見渡してもやっておられると。これ農業委員会さんとしては逆行になるかと思うんですが、私はそれも1つの方法じゃないかなという気がします。そこで、今までその地権者の方が生産者に依頼して米なりつくるということであっても、その地権者というのは、ほとんど何も認識が

ないって言ったらおかしいんですけども、そういう状況であって、ソーラーをすることによって多少がみ入りがある。どういう経営形態でなってるのかというのは、いろいろあるかと思うんですけど、詳しくないんでわからないんですけど、そういう1つの見方があってもいいかなというふう気がします。それで、日吉町もかなりのソーラーというのを先ほど言いましたんですけども、そこら辺の数字的に、ある程度農業委員会のほうで今把握されてるかということかということを1つお聞きしたいですね。日吉町でどの程度なってきたのか。

それとあと、基盤整備されてるところで、新たにそういうソーラーなりをやるときには、どういう、例えば農転手続とか必要だと思うんですけども、基盤整備されて何年後にそういう何も縛りのない、そういう経営ができるのかということもちょっと、私知識不足なので、そこら辺のところについてちょっとお聞きしたいなと思うんです。

それと、この間、安倍首相が施政方針演説の中で、農業の所得を倍増するとか、今あった六次産業を進めようとか、そのような話があったんですけども、その中でちょっと気になったのは、農地の集積バンクですか、何かそういうものをつくって規模を拡大して、そういう農業に向かっていこうじゃないかという、そういうあれがあったんですけども、そういうものに対して、今農業委員会さんとしては、何か対応してるのかどうかということですね。確かに、それはどういうものになるかというのは、きっとバンクという名前がついてるんで、そこである程度コントロールしようかなという政府としても意思があるかもわかりませんが、そういうものに対して何かアクションを起こしているのかどうかということ、ちょっとお聞きしたいなと思います。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。谷口さんお願いします。

○谷口氏 農業、一個人の農業というより、今この状況になってきたら、集落がどうなっていくのかなというのがかなり大きな問題になってくるん違うかなと僕思っています。今高齢者率が、センサスで65歳以上の人が今63%に近いというのが全国の平均ですか。京都府は67か8か、そこら辺が速報値として上がってきてると思うんですけど、そういうことを、じゃあ、南丹市は今どういう状況なのか、南丹市でも八木とか園部とか、また美山、日吉とは状況が違うと思うんですけど、そういうことも含めて集落にいろいろな情報を提供してもらって、その中から考えていくということをしてもらわないと、集落全体がもたへん。もたし方をどうするかというのは、それは農政部会さん十分考えられてると思うんですけど、そこら辺もまた集落のほうにおろしていただきたいなと思っています。

その中で、農地の集積率で国のほうは70か80を担い手に回すとかいう構想ですけど、京都府は50でしたか。南丹市はじゃ、どこら辺までそういう方向をもって進むのかとか、そういうなんがやっぱり農政として示していただければ、現場としてはありがたいかなと思います。

これも出ますけど、やっぱり南丹市としての特徴は何やということ、やっぱ早い

こと出していかないと、じゃ、南丹市に若い人を呼ぶって行って、「南丹市特徴何ですか」って、「南丹市の営農の特徴何ですか」って言われたときに、「ええっと、いろいろありますけど」みたいな話になってしまったんでは、地域の人もなかなか来てくれへの違うかなと。日吉町が合併前に新規の就農の人を入れられたんは、まず基本的にミブナっていう特産物がそのときはあったから、これを基盤になったら就農しても生活ができるん違うかなということが入ってこられた人が多いと思うんですけど、そういう何か足場になるものをやっぱり特産物として育てて、それを6次産業化も含めた流れの中で早いこと組み立ててもらわんと大変なことになってくるん違うかなと思ってます。

それともう一つは、高齢化が進んでいく中で、いろんな組織があるわけですね。その組織を担うというのが、担い手が減ってるわけですから、その減ってる担い手に集中していくわけですね。そこら辺をもっとシステムを整理していかないと、みんなが役疲れ、会議疲れになってきて、結局どこが決めてるんかということもわからんままいろんな会議があり、一応会議はやりましたよみたいなことになっていくんで、やっぱりそこら辺、スリムにする、組織はスリムし、やっぱり必要な組織は組織で残すという線も出しているかと、なかなか話が積み上がっていかへんの違うかなということを個人的に思ってます。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。今日吉町で営農されてる3名の皆さんにそれぞれお話をお伺いしましたので、農業委員さんから何かあれば聞かせていただいたらうれしいと思っております。

富沢さん、中村さん、御意見はまた後で、渡邊部長のほうからわかる範囲でまた聞かせていただこうと思っておりますので、よろしくお願ひします。

谷口さん1期目のときに一緒に農業委員お世話になって、なった方でございますんで、また今こうしてもう委員やめれて、そしてまた、今農業一本で頑張っておられることを聞かせていただきましたけど、また反対に農業委員はどうしたらもっとええのか、そういうことちょっと聞かせていただきたい。これからまた、私たちまだしていかなあかんことをまた勉強させてほしいと思いますので、気がついたことあったら聞かせていただきたいなと思っておりますけど。

○谷口氏 そんなこと言っているんですか。

○農政部長 言うてもらったら結構です。

○谷口氏 どんなこと言うてもいいんですか。

○農政部長 はい、結構です。

○谷口氏 不十分ながら農業委員で勉強させてもらったつもりですけど、やっぱり農業委員してる方は、農業委員やと思っただけでもらってるかもしれないけど、地域というか集落なん中で、じゃ、農業委員って何やっていうのは、まず見えにくいということで、いろんなシステムがあって、新規就農者の人たちが、まず農業の相談行くことになったときに、どこへ行っていいのかということもわからない。それがやっぱり、かなりいろんな

無駄が発生してるんちゃうかなって思います。国のほうでも農業委員会の改革を考えていると思いますが、確かに戦後すぐできた法律でもう70年ぐらいたってるわけですから、現状に合っていない部分があると思うんですね。やっぱりそこら辺は国から言われるんでなくて地元のほうから、やっぱりこういう農業委員会にしたいという、逆に提案していかんと飲み込まれてしまっておしまいになるん違うかなっていう気はしてるんですよね。農地解放を受けての農業委員会やと思うんですけど、やっぱり農地を守るというのは主で、強い権限はあると思うんですけど、そこら辺でなかなか僕も委員のときに何もできなかったし、活動もできなかったんですけど、今回農政部会というところで毎月行われてるんであれば、やっぱり積み上がった議論をしていかんと、どんどん上からの情報に押し流されていくん違うかなって思いますけど。

ちょっと中村さんの意見と少し違うんですけど、先ほどのソーラーのことですけど、僕は地域の特徴を出そうと思えば、農地を簡単にソーラーパネルで覆うというのは、景観的にどのようなものかという気はする。この地域に合った仕組みに近いところで、どういう景観を残していったら、まちの人がこの地域に愛着を持ってもらえるのかということ、という発想も必要なんだろうかなと、個人的には思ってます。

大それたことよう言わんで、すいませんけど。

○農政部長 ありがとうございます。また参考にさせていただいて、改めるところは改めて行きたいと思っております。

○平野委員 先ほど地域特産物の話が少し出ましたけども、旧町から基本的に、園部でしたらキクナとか、八木でしたらミズナとか、そのお墨付きというのは従来通り変わっていないという形の中で今の生産、それぞれの経営の生産部会さんなりが取り組まれてると思うんですけども、その辺を集約して南丹市としてどうしていくかというのは、先ほどの渡邊部長の説明のことなんですけど、それと合わせて、経営所得安定対策の中で、やっぱ地域特産物というのは指定も南丹市ではされてて、それに対して、その配分何かについてもちょっと手厚くとか、そういうなものがどういう生産物であるかっていうのは、もう特色づけられてますので、そういうな部分を見きわめていただいて、28年度いい計画が策定していただいたらなというような形で思ってます。なかなか6次産業化というのは、なかなか難しく、なかなか私も市におらせていただいたときにもいろんなことも考えさせていただきましたけども、やっぱりコストとか、いろんな人的なものとか含めて難しい部分もあります。なかなか軟弱のもので、そういうなものをつくり上げていくというのはなかなか難しいとは思いますが、何かいいものができていけばなというような形で思ってます。

それと先ほどちょっとハウスの話も少し出てましたけど、旧園部ですと、若干その辺の流通もされてまして、今後その辺もうまくいけばなというような形も思ってますので、思ってますけど、実際に農業委員としても空きハウスについては、それぞれ地域を見させていただいて、最近ですと今熊原のほうで、お近くですので少し圃場のほうで土地で従

来やっておられたところで、その辺で、今まで従来やっておられたとこのハウスとかを1回潰して、またやられるところについては建てかえられてという保証もされるようですが、要らないところについては、また置いといてくれるようなこともあろうと思いますが、なかなかそういうところに声はかけさせていただきませんが、なかなか踏ん切りが、よい声を返していただく方ってなかなかないなと思いながら、それでも農業委員としては、そういうとこ地域を見させていただいて、そういう情報を得るという努力はさせていただいてるというようなことです。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。委員の皆さん、何かほかにありますか。

なければ、渡邊部長から先ほどの答弁いう形で、ちょっとお願いします。

○渡邊オブザーバー すいません、全部答えられるかわかりませんが、富沢さんのほうから出ました環境に優しい農業ということで、バイオディーゼル、これについては、今ちょっと調子がよかったんは、ガソリン代が高かったんで、B100言うて、バイオディーゼル、いわゆる植物用油を回収してきまして、それを精製して、いわゆる軽油にかえて、耕運機等で使うんですけど、大体200リットルのドラム缶で卸してきます。それで110円前後やったんですけども、今ちょっとガソリンがそれ超えてしまったんで、いうのが1点と、やはり思いの中で、これちょっと今後普及させようと思っておるのは、環境に優しい農業やってますということで、いわゆるバイオディーゼル、よく京都の市バスで聞いてもうとるように、てんぷら油の家が廃棄ガスからするというところで、通常の農機具で使ってもらう分については100で大丈夫やということで、今八木のバイオエコロジーセンターでは、専用の給油の装置を設けて、場内の、いわゆる堆肥の切りかえしに使うコイルローダーなどの燃料は、もう全てそれになってるようなことでございます。

2つ目の意見いただきました。ちょっとやっぱりふるさと納税については、やっぱりちょっと改良点があるのかなというふうに私自身も思ってます。中村さんのほうから意見の中で、圃場の分がほとんど受託されるなり、やれる利用権設定で、ほとんど地域の人が田んぼを守りせやらんと、ほかの人で7割守りしていただいとるということ、少ない現状なんかなということ、ちょっと改めて感じたようなところです。

その中でソーラーの意見を出していただいたんですけども、これ農業委員会メーソンの話ではあるかと思うんですけど、基本的に南丹市の関係では、たいていの地域において、農地水や中山間地域の直接支払交付金をもらっていただいておりますので、そこで森とまちがあって、太陽光パネルを立ててもらおうと、遡及返還ということにもなりますんで、その辺は十分注意してやっていただきたいなと。当然、圃場整備をしておられない住宅地とも改善農地でありますとかいうところについては問題ないんですけども、結構夏場に熱が発生するということで、周囲に与える環境もあるみたいなんで、農政サイドとしましては、やや設置に対しては慎重。基本的には、いわゆる農地圃場整備が終わった田んぼでは許可出ませんよという対応をさせてもらってます。

あと、農業所得の倍増ということで、これ集積事業いろいろあります。転用される貸し手側、借り手側のものについて支援をしながら集約化は、言うたかな、担い手のほうで集約していったら、生産コストを下げるといふ事業なんですけども、基本的にはきょう、西村さん来ていただいておりますけども、農地中間管理機構を利用しましてやるんですけども、あんまりこれオープンで、前のときにもしゃべらせてもうとったんですけども、貸し手、手を挙げてくださいといふと、貸し手だらけになって、誰が受け手になるんやといふ、受け手が存在しない中でそういう話を聞いてしまいますと、我も我もといふ話で、例えば転用の関係で、農業をやめるのに、今3反以上やったら何ぼ渡します、5反以上やったらこんなけ、5反以上はこんなけといふような話があるんですけども、その話ばかり先行していくと、地域で農業を守らなあかんの、逆に逆行する、手放して、後知りませんよといふようなことになっても何なんで、ちょっとその辺は慎重な取り扱いをしております。基本的には、一定集落でまとめ上げていただいて、貸し手と借り手がはっきりした中で農地中間管理機構の取り組みについては、実質動かしてるのが現状であります。

次に谷口さんのほうからいただきました、これも農業委員会と連携しながら、やっぱり高齢者情報とか、今後の地域の、いわゆる高齢化率も含めてどうなっていくんやいふような情報は、農政サイドのみならず、ほかのところにも関係しておりますので、その辺はうまく伝わるような仕組みをつくっていきたいといふふうに思ってます。これは企画部門とも一緒に連携してやってるようなところがございます。

あと、市として集積率どやといふ話があったんですけど、今の現状では、先ほど言いましたように、やみくもにそういう集積を考えていくと、まずは地域の中の営農体系で考えてもらうようなところで取り組んでいけたらなといふことで、中山間地域の直接支払事務をやっておられる役員さんなり、農地・水の役員さんなどに、その辺うちのほうで申請書をチェックさせていただくときに担当のものがそういった旨での調整などの御意見も聞かせてもらう中で事務を進めておるような状況でございます。

あと最後に言ってもらったんですけども、やっぱり特徴ある農業はどうすんねんやといふことで、やっぱり10年前ぐらいは、言うてはったように、ミズナで営農計画が立ちました。単価もよかったといふところで、それぐらいがもう限界で、あとはもう悪くなる一方で、今後もやっぱりその辺、就農計画、新規の方にもつくるときに普及センターとともに計画を立てておるんですけども、なかなか難しい現状になってきてるのが現状です。またその辺も含めて、ちょっと京都府とも連携しながら入っていけたらなといふふうに考えてます。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。それで、また時間の関係もございますので、次に美山町で営農されてる中島さん、篠山さんをお願いしたいと思いますので、まず初め中島さんからよろしくをお願いします。

○中島氏 すいません、美山町の中島と申します。15年ぐらいしかまだ農業をしてない

んですけれども、15年前に営農の養鶏を立ち上げまして、今きてます。この表では水稲プラス養鶏とってますけども、養鶏プラスほんの少しの水稲というなことでございます。水稲といいましても、1町3反ぐらいしかありません。美山町は、私はまだ日吉のトンネルから出て2キロぐらいのところですので、まだ近いところなんですけれども、人間よりもシカやライノシシが大変多いところでございます、田んぼをつくったのか、シカをかつたのかわからへんようなところですので、なかなか規模拡大っていうところにはありません。私、今年、去年の4月に子供をかえしまして、どうやと、小遣い程度しかないけども、一緒にせえへんかということでやっております。水稲の拡大ができればいいんですけれども、実際に今言いましたようなことですので、集落の中で余ったところを維持していくのが現状で、水稲でもうかるということも思っ、られないような状況です。先ほどおっしゃってましたけど、集落の中で、ええとこだけそらつくらせてもらえたら一番もうかるんですけども、余ったとこどうやということをつくってるんで、水稲でもうかるというよりは、集落の水稲の維持をしとるようなことです。これが何とかならへんかったら、子供に規模拡大して一緒にやろかいやと、もっともうかる農業しようかいよということなかなか言えへんなところなんです。また、ほんで、規模拡大をしていって農地集積をしていった場合に、獣害の線にしてもフェンスにしても、それぞれ自分らのとこだけでせなあかん。またその水路の維持管理の中で飛躍が出てこないで、自分らだけで、その長い水路にしていかなあかんとなると、農地集積をしたら、これちょっと逆にまずいんちゃうかというようなところで、今後どういうふうにしていったらええのかなというのが頭が痛いような状況です。

それと、今南丹市の中でなかなかずっと人口が減っているというところの中で、Iターンに対してそれぞれ施策もとられておりますけれども、やっぱりUターンももうちょっと目をつけていただいて、集落の人を残していくということがなければ、なかなか集落の維持はできへんかなと思っております。先ほど言いましたように、水稲でもうからへんさかいに万歳しはって、誰も受けてがないという状況になってくるということは、そのもうからへんところを若い農業者に頑張れよと言うたかて、もうからへんところ任すんですわ、これもうからへんですねん。やっぱり農業で若い人がええとこって、頑張ってもうけよと、そのかわり、やっぱりサラリーマンでちょっと年齢超えた人が維持管理のために一緒にみんなで集落営農して維持管理しようかいやということやないと、なかなか若い子が帰ってきて農業をということにはならへんのちゃうかなということを思います。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。篠山さんお願いします。

○篠山氏 すいません、言いたいことがほぼほぼかぶってしまって何を言おうかなと思っただんですけれども、僕個人の状況といたしますか、うちは肉養鶏と京地鶏というのと、今新しく京美山地どり、美山豚という豚をちょっと趣味みたいなもので育てとるんですけども、うちんこの状況でいいますと、すごく水の神様と疫病の神様に好かれてるら

しくて、やり始めたころに鳥インフルエンザが来、ストップしてしまい、次怖いなど思っ  
つつも、それを疫病対策ちゃんとせなと思っただころに、こんど市鶏場が法定伝染  
病を出し、そこからうちが鳥入れとって、うちの鳥が殺処分になってしまい、どうにか  
せなあかん思っ、次のところに新しい鶏舎を、お金引っ張ってきて建てたら、そこが  
水に漬かったり、その水を避けるためにほかのところに行ってやったら、今度、前の台  
風のときに土砂崩れが起き、やっぱりそこに谷水が流れ込んできて、また沈んでしま  
い。ちょっと人災でいたずらをされ、また新しい病気を入れられてしまい、それを何と  
かしよう思っコンクリートをはったら、またそこに水が来という、すごく楽しい状  
況になってまして、なかなか、そんながなかったらそこそこもうかるような感じでは  
なっただころでしょうけど、ちょっとそういう償還を返すのに、今手いっぱいにはな  
っただころの状況なんで、今僕がここで何を言えるんかという話なんですけれど、ち  
ょっと僕、ずっとやって思うのが、もうかる農業というのと、あと集落維持のための  
農業って全く別物やと思うんです。国の言うてるように、どんどん集積していった  
ところで、僕らの場合ですと、畜産でなんでふんが出ると、そのふんは地域に消費  
してもらわないと困るんですけど、結局僕らが集積した結果、自分のところで消費  
せなあかんというような状況になってしまい、結果として環境負荷のかかる農業に  
なっただころか、あとさつき中島さんと一緒の意見なんですけれど、僕らが広げ  
ることによって、結局長い、長い水路を僕らが管理せなあかん。そうやってい  
くと、もうどう考えたって回るはずがないんです。時間的にもお金的にも。僕が  
思うのは、田舎に暮らしたいという人は潜在的にも結構いっぱいいると思うん  
です。そういう人たちに1反と言わずに1反の半分、家と一緒に住まへんかって、  
1反の半分でもつけて渡して、農業者って、なんちやって農業者を増やしてい  
き、水路の維持とかそういうのをみんなで一緒にやっていき、もうかる農業って  
僕らがやる分には、しっかりとベースに、金銭ベースの乗る農業というのを組み  
立てていかなあかんのかなと。そういうふうにならばつながりもふえていきます  
んで、もうけるチャンスというのもいろんなところで芽が出てくると思うんです。  
今農業でもうけてはる人って何人もいはるんですけど、僕の周りでも。でも、そ  
の人にしか基本できないような営農のスタイルなんです。僕らがその人のところ  
に行ってまねしようと思っても、結局その人の人脈で広がっているようなスタイル  
であったり、それを僕らが急に入ってできるかって言われたら、できるわけがな  
くて、それやったらそういう半分ずつやってる人たちと話をしって、そこからつ  
ながっていって、おまえそんなことやってるんやったらうちのところもこんな  
あるから協力するわって言っ、ちよつとずつそういうチャンスを拾っていかなあ  
かんのかなというふうにならば、僕個人は今そういうふうにならば思っます。な  
んで、今ちよつと自分のところも時間もなかなかとれないですけど、なるべく外  
に今出って行っ、営業かけて、そういう種をちよつと自分のところに戻ってい  
くように、今、自分のところではそういうふうにならば進めています。

あと、人が集まらへんとか、そういう話になっ、今外国人の派遣のという話



あったんですけれども、うちの知り合いの社長がその会社の社長なんで、もし興味があれば、多分かなり安い値段で入るようにはなると思うんで、声かけてもうたら紹介します。

あと、人、人ですね。基本的に人手不足であれなんですけど、多分長期で働いてくれる人というよりも、時間的に長期に来てくれる人、例えば7月、8月、9月の間だけ来てくれるっていう人を、多分皆さん求められてると思うんです。なんで、そこをちょっとどっかマッチングできるようなシステムというのを、僕らも意見を出しますし、ちょっと構築していただけたら、比較的そういうところも解決していくのかなと思います。何を言ってるのかようわからへんような状態になってしまいましたけど、これで失礼します。

○農政部長 ありがとうございます。美山町で営農されてる2名の方にそれぞれお話をお伺いしましたが、農業委員の皆さんから何か意見ございますか。

大変な目に遭われてるということを聞かせていただきましたけど、災害等で先ほども言われましたように、もうかる農業か集落維持かということも聞かせていただきましたけど、私も美山町でんねんけど、主に美山町あたりは親からもろうた、先祖さんからいただいたその農地を守るのが精いっぱい、もうかる農業という人は、ほとんどと言うてええほど少ないと思っております。また、園部、八木の地域とは、またちょっと違うような形かなとは思っております。

それと、Iターン、Uターンの話も出ましたけど、そうして人を増やしていただくの本当に、そういう形をせんとあかんということはわかってますねんけど、今結婚したはらへん方がたくさんおられます。美山町にもたくさん結婚しておられない方がおられますので、その人らが結婚していただいたら、もっと人口が増えるのかなと思って、それはいつもその人等を見たら思っとるようなことです。

○篠山氏 新規就農者を増やすというよりも、純粹に田舎で住みたいという人は、農業をやりたいというのをどっかで思ってる人がほとんどなんで、その人が簡単にちょっとでも関わっていけるようなシステムをつくれたら、反の3分の1でもいいのでつくれたら、多分そんな人も水路の維持管理とかには出てくれるようになると思うんです。

○人見委員 そういう維持管理がかなわんだけに集落のもん、若いもんは皆外行くんや。

○篠山氏 そうですよ。外から来る人は反対なんで。

○人見委員 そういう村の行事とかのそういうことが、もうめんどくさいんや、今の若いもんにしたら。ほんで出ていくねや。来てくれたら一番いいねや。そうして皆、それに出たりすんのはもうかなわんと、役もうたりするのはかなわんと言うて、もう村に残らへんねや、若いもんは最近。

○篠山氏 僕もそれは重々感じるんですけれども、逆に外から来る人は。

○人見委員 外から来る人が一番ええねや。ええねやけど、それがもう若いもんはそういうふうになってきてんやん。もう我々でも。でももう年の差でやっぱり聞くと、やっ

ぱりそういう皆それがかなわんだけ、かなわんというかめんどくさいことかなわん。

○篠山氏 人数が減ってきて、残った人がどんどん集約していくから余計かなわんようになるんですけど、でも外に住んで、わざわざ田舎に来たいという人は、ちょっとでもそういうのに触れたいという、農業の関係に触れたいという人が多いんで、確かに、えーこんなこともせなあかんのって言われることは多いと思うんですけど、でもそこに住んでた人がやるよりもハードルは低くなると思うんです。なんで、ちょっとでもそういうところでつなげていけるような感じになればと。

○人見委員 それが一番ええねや。それを思ってんねけどな。やっぱりそういうな行事やら参加するのは嫌やなんや。ほんで田舎暮らしがええっちゅう言うてるけど我々の平均値の中ではな、やっぱり田舎暮らしは若い間や。年とったら田舎帰りたいって言うけど、ようけあんねんけど、年とってよう考えてみたら、車に乗れへんなったら、田舎で生活できへんで。そうすると皆帰んねん。若い間やったら無理してでも遠いところでも務められるけど。我らの経験からそれを思ってる。わしの地区の年にも100なった人でも、今京都の真ん中におられる人おるわな。大きなマンションに住んどんねや。そしたら、病気がって隣で降りたかて、もう100超えとったかて、何かの病院があって医者が診てくれるわ、言うたら。田舎ではできひんやん、それが。若くて車に乗れる間は、そら病院行って、行けるって。災害でもどうにもできへん。

○篠山氏 そのとおりやと思う。僕も年取ってから田舎でって言われると大変やと思うんで、基本的に僕が言うてる世代は、子育て世代の人たちが来てもらえるような、そんな人らって、田舎で暮らすにしてもハードルが高過ぎる、今の状態で。なんで、そのハードルがちょっとでも下がるような仕組みというのができたらなと。

○人見委員 しはったら一番ええねんけんけどな。なかなかそれがもう、できへんねんけんけど、そらそういうことをしてもらわな。支援してるところは若い人が入ってきてようけ新聞でもよう出てるわ。見てると。でもなかなか、もう集落に残っとるもう70以上の80、90に近い人ばかりおるようなところはなかなか入ってきいひん。きてくれて応援してやったら、そら来る人もおるわな。まちでは。

○農政部長 よく言いますねんけど、私の集落は12戸でしてんけど、2戸が新規就農の、新規就農ちやいます、1ターンで来た子がいます。よくしたいと思えますけど、1人はキモト君いうて、あぜ道か何やで、あれやとる子ですな。その子とタグチ君って2人おりますねんけど、彼ら2人、もうちゃんと家建てて子供2人、3人いうて、5人、うちの地区から5人子供が、小さい子ができたんです。ところが農業は絶対嫌や言うて来てますねやわ。農業するねやったら入らへんで言うて。それもあかなと思っておりますねんけど、それももう子供らがもうだんだん大きくなってきて、高校出たら、もう必ず出ますし、「どうするや」って聞いたら「子供は子供の人生やで、とやかく何も言わへん」ちゅうて彼ら言うてますし、「何でほなこっち来たな」言うたら、「僕は京都におったんでは、ちょっと家がよう建てなんたらわかんけど、ひよっとしたら、田

舎行ったら家建てれるかもわからんで来ました」言うて、だから家建てましたわ。そういうタイプの子も中にはおるみたいです。

○木村委員 すいません、ちょっと途中抜けておりましたけど、集落の中の水路の問題とか、本当に悩ましい部分はあるのかもしれませんが、私の地元の黒田という村の中の話なんですけども、水路の維持なんかはね、多面的機能支払交付金などお金が出て地域全体で取り組もうという方向性が出ておりますし、実際そのとおり我が村は六〇数件の村で農家44軒ですけれども、農家の方、それから外部から入ってこられた方も一緒に3月の彼岸の日に溝さらいと道づくりというのを昔からの行事でやってるんですけど、それは農家の方も含めて一緒に取り組んでますし、単にそれ溝さらいするだけでなくって、年中行事として7月には集落の農道にコスモス植えるんですよ。多面的機能支払いで、その維持の部分で言うと、景観対策で取り組んだりするんですけども、村全体で取り組もうという、そんな取り組みもありますので、確かに現実を見れば厳しいことばっかりかもしれませんが、おっしゃっていただいたように入ってこられた方が田んぼ1枚でもかまへんさかいにやっていただいて一緒にやろうなというのは十分ありかなと。それほど悲観的にならなくてもええんちゃうかなと。うちんとこの村のことを思えばそんなふうなことを思います。

○農政部長 ありがとうございます。それでは、渡邊部長から、また意見としてももしもあれば、お聞かせ願いたいと思っております。

○渡邊オブザーバー すいません、そしたら簡単にですけども、中島さんのほうから出てましたように、結構集落での維持管理が大変なところになるというところで、実際、先ほど来出てます農地の集積事業に関しましては、本間にどっちか言うと南丹市のような中山間地域を、いわゆる狙ってきたはる事業はなし。やっぱり滋賀県とかああいう広大な平たん地で1町区画の土地について、企業参入にするような中で何とか支援できへんやろかというのが、僕らから見てもうたら、そんな事業の感じでとってます。当然うちらのようなところでいったら、さっき中島さんのほうから出てましたように、谷田も含めて受けてもらわんと、農業集積、農地集積あきまへんど。よいとこだけ買うてると、変な話、ほか知らんでというのでは、地域の営農活動にも支障が出てきますので、その辺も含めた中でちょっと慎重に南丹市のほうは動いておるとというのが現状でございます。Uターンも含めてそういうことで、やはりそのようなところについても、いわゆる定住促進に掲げて南丹市のほうも市全体で動いてます。そんな中で住んでいただけるような手だてのPRについても市全体を通じてやっていきたいというふうに考えてますので、よろしくお願ひします。

あと、篠山さんのほうから出てましたような格好で、期間的な人員の確保というのは、やっぱりこれコストダウンについては、結構ポイントになんのかなというふうに感じました。ちょっと中座しまして間のことがわかりませんが、やっぱり外から来た人の力を借りながら集落機能を維持していかなくとも来ておるというふうに理解してま

すので、その辺やっぱり住んでもらえるような環境づくりが重要かというふうに考えております。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。それでは、時間の関係もございますので、次に園部町の下間さん、堤さん、児島さんをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。下間さんのほうからよろしくお願いします。

○下間氏 失礼いたします。今までちょっと話を聞かさせていただいてまして、皆さん難しいことをよう言わはるなど。僕はもう本間にあほなんで、なかなか難しいことも言えないこともちょっと了承いただいて、きょうの意見交換の中で、現状の課題とか、行政機関への期待ということなんで、まずはうちの現状ということをちょっとお話をさせてもらおうかなと思います。うちは南八田ということで、おやじが帰農しまして、僕はもう言うても2代目でございます。ほんで、今南八田21町分の土地があるんですが、その中の大体8町弱を米とエダマメ、それでやらせていただいております。営農の課題としましては、最近もう目に見えてわかってきてるのが高齢の波が来ると。うちのおやじがそうなんですけど、もう70の壁をたたき出してきたと。そうするとやっぱりもう全然体が動いていってないと。口は達者なんですよ、もうどんどん言うてくれるんですけど、なかなか体がついてこない。ほんで、米をメインにしていますので、重量物が多い。ほんで3年前くらいから米のリフト、リフターですね、もう1個、1個袋を上げるリフトを買って、それでやっていると。けども、それでも追っつかへんさかい言うてもう去年度はついにフレコのリフトの設備を入れさせていただきました。これからはほんで、言えることというのは、これから体が動かへんようになってくるということは、何かやっぱり頼っていかんといけないということで、いろいろうちも市で設備の投資をしていかなあかんのなかと。ただ、米価は下がっていく、補助もいろいろなくなっていく、そんな中で本間に思うのは南丹市さんとか、そういうところで、僕らせっかく法認定にはなっておりますんで、そこに向けての、もうちょっと補助、応援なりをいただけるような体制をとっていただければ、もうちょっとスムーズに、今の規模の現状の維持ですね、これがしていけるんじゃないかと。この現状の、僕はもうほんでこれ以上、はっきり言うて、労働力のなさからもう、はっきり言うて規模拡大というのは、僕は難しいと、今現状思ってます。ただ、本間にもう、今の規模を維持するのか、それとも品目を絞って行って、これを縮小していくのか、もうそういう岐路には立ってると思ってますんで、何かそういうところで情報をいただいたりとか、そういう応援をいただいたり。ほんで、マメに対しても24年度に国の事業でブームスクレーターのほうに入れてもうたんですけど、これも薬をまく労力がものすごく大変やということで、そのときにもちょっと南丹市さんのほうにも相談をさせていただきました。でも、その中でも南丹市独自では何もないと、応援できることはないということをおっしゃって、そのときに物すごいショックを受けたのを覚えてますんで、できれば、せっかく僕ら法認定をいただきまして、きばって地元でもやっとなるところで、そういうところで何か予算

を組んでまでは言わなあかんのかもしれんですけど、何か応援をしていただける手だてをつくっていただけたら、僕ら個人でやってるものに対してはなかなかうまいことそれで波に乗れていくんではないかなと。

ほんでもう、うちの次は区のことをちょっと話をさせてもらいますけど、南八田21町ほどあるんですが、遊休農地は今のところはございません。ほんで、今みんなで区の中で話をしてるのは、これ10年先どうなるやろなど。もう今頑張っておられる方が、それこそ65から上の方ばかりなんで、きょうもその話し合いってもう、子供みたいなんに扱いをされてしまうんですけど、もうその中で思ってるのは、本間草刈り1つに対しても、水路の掃除も、さっきも言われてましたけど、それもそうですし、もう草刈りの手間でもかなわんと言われる方が多いんです。というのも、うちは一応勾配地ではあるんですけど、中山間地には当たらない地域でございます。ただ、ひどいところ行きますと、5畝の田んぼ3面、4メートルぐらいの効刈とか、もうそういう田がいっぱいございます。もう草刈つとる面積、田んぼの米つくつとる面積よりも草刈つとる面積のほうが多いんちゃうかというのが、ごろごろしとるようなとこなんで、そういうところに対しても、またモアアとか、ひどいとこやったらトラクターモアアやらとか入れていかなあかんのかなと思いつつながら考えてるんですけど、やっぱりそれに対しても何んかの応援がないと、個人ではなかなかやることができないと、そういうことでみんなが今話をしてますんで、本間にもう何て言うんでしょ、もうちょっと、こんなこと言うてもわからへんのですけど、南丹市さんなり、ここにおられる方々にもっと関心を持っていただいて、もっと地元を見ていただいて、そういうところで話をどんどん広めていてもらいたいと思います。

あと、うちもさっきも、美山の中島さんからちょっと話がありましたけど、うちも大概シカ、イノシシ、そしてプラスサル、この辺の多い地域でございます。サルに対しては、この前南丹市の農林整備課のほうから、サルの追跡用のメールを発信をしていただけたようになりまして、本間にあれはありがたいでございます。ありがたいものです。ただ、これもちょっと1つだけつけ加えさえていただいたら、発信される時期が大体夕方5時半とか6時、あれ、うちもこの前あったんですけど、昼間にサル来て、それから夕方にサル来てまっせいうメール入っとな。ちょっとだけ、もうちょっと何とかリアルタイムにならんかなと思う、そういうのが1つ思いますんで、ひとつよろしく願いいたします。以上で、取りとめのない話になりましたが、以上でございます。

○農政部長 堤さん、よろしく申し上げます。

○堤氏 失礼します。皆さんから意見出てることとほとんどかぶるんで、さほどないんですが、やっぱり獣害対策という部分が、僕一番ちょっとネックかなと。個人でできるコストもかかるということで、やっぱりこれから農業をされる方でもそうですけど、やっぱり獣害ないところにやっぱ行って、そういうリスクのないとこで農業したいという方のほうが多分多いと思うんで、それ言うたら亀岡とかのほうで獣害も少ないようですし、だ

からふえていくん違うかなと。やっぱその辺の対策をしていかないと、多分南丹市、うちらもそうですけど、やっぱりイノ、シカ、チョウ、サル、最近2年ほど前から猫、猫がこれ施設のビニール屋根登って破るんですわ。んで、これ何回張りかえても結局、それは近所の問題であれなんですけど、それくらいひどいんです、正直。その辺で去年でも、昨年でもそうですけど、結局被害という部分で、うちでもやっぱり2反ほどありましたし、26年度やったら5,500何万という数字が出てますけど、これ多分一角やと思うんです。もっとあると思うんで、実際それを整理していただいたら、すごく農業者自身もやりやすいかなという部分があります。それ踏まえて、規模をこれからまた拡大していきたいんですけど、今とりあえず畑のほうで4町ほど、大体やってるんですけど、ことしはちょっと黒豆とズキンのほうで3町ほど考えてるんですけども、それでもやっぱ、ちょっと獣害の問題が怖くて不安はあるんですけど、どうしても規模を拡大していくために機械化という部分とか、そういうことを進めていってるんですけど、どうしても予算がかかってしまう、その中で、今まで例えば何とか法人とか、そういうところに対しては当然補助金がおるとか、下間君も言うてましたけど、認定農業者に迅速に対応するような対応という部分をしていただけたらうれしいなというのを。隣町とか、例えば7割ほどとかね、考えると、それやったら農業したいな、できるな、施設建てたいなとか、そういう考えにもなってくると思うんで、もうちょっと農協のほうに、あんまり言いにくいかもしれないですけど、その辺を力入れていただいたら助かるかなという部分があります。今、今後、今までちょっと南丹市にお世話になってるんで、今後もお世話になるつもりもあるんですけども、自分としては、そういう例えば施設の補助とか、そういうのが優遇が例えばできるのであれば、あいたところにそういう施設を何十棟とか建てて、地域に受け入れ態勢として研修生を受け入れていきたいなと。ほんでIターン、Uターン等、農業者の人口をふやしていったりという部分で、官民合わせて協力してやっていって、当然そうしていく中で税収が落ちていくような形をとっていただけるとい分もあります。さっきの補助金とか、そういうところ頼りにして機械買うとかいう部分あるんですけど、どうしてもやっぱり最初に出るお金がない分、その辺を補助していただいたら、当然その分見返りとして、僕は市なり、府なり、国に対して税金として返していきたいなと、それは責任を持って思ってますんで、その辺はやっぱりしっかり対応していただきたいという部分があります。

あとほんで、6次産業とか、何かいろいろ話出てますけど、これ個人でやっても正直無理です。はっきり言うて。いろんな、ほかの全国でネットワーク持ってやってるんですけど、個人でやってるとこ、個人の自己満足でしかないんです。売り上げ自体も正直そんな上がってないですし、格好だけみたいなものがあるんで、やっぱり市とか町とか含めてPRしながらやっていかないと厳しいかなという部分があります。僕はやっぱりこの地域でマメとか、そういう関係のものももっとPRをしていって、産地は移動するという言葉もありますけど、ここが産地やねんけども、すごい面積やってるよとかいうぐ

らいのもんをつくっていきたいのと、何年か前からは、ちょっと現代農業の勉強しながら、新たな取り組みとして、普通に栽培する方法じゃなくて、180度ひっくり返したような栽培の方法とか、そういう形で新たなものの取り組みもやっています。全国で今400名ほど、いろいろ仲間がいますんで、その中で情報交換しながらやって、そういうもんをもっと取り入れていこうということで、JAとかにも話を持って行ったんですけど、ちょっとなかなか腰が重たいという部分とかもあって、進んでない。平野委員さんにもいろいろ協力していただいて、そういう検証なり、勉強なりはしてるんですけど、そういうもんで、地域としてこういう取り組みもやってるといふ部分でやっていけば、新しい農業として受け入れてくれる、その新しい農業したいという人が出てくるんじゃないかなという部分で、今までのやってきた部分をずっと守っていきながら、新たなもんにもチャレンジしていく。どうしても年配の方とか、新しいことチャレンジしていくのは腰が重たいと思うんで、難しいかもしれないですけど、僕らみたいな、まだ若手なんですけど、そういうなんに力入れてやっていたら、みんな賛同してやっていけるのかなと、そういうなんを市含めて協力してやっていただければ助かるなということがあります。

6次産業にしても、結局そういう、個人ではなかなかできないんで、そういう窓口を設けていただいて、こういう取り組みで、例えば園部町、八木町、日吉町とか美山町とか、いろんなその特産物があると思うんで、そういうなんでもっと全国的にアピールできるような状態をとっていただけたらなと思います。

あと、さっき言われてはった派遣の部分で、篠山さんも言うてはりましたけど、ああいう人材派遣って結構あるんで、ベトナムからでも、例えば研修として、今やったら、例えば滋賀県とかダイハツとか、こっちのほうでも、その光悦村でも知り合いのところがちょっとベトナムの子を受け入れてやってる分があるです。それは、何やったら研修ということで、半年とか1年間とか区切った滞在という形で、そこでは向こうから来る人間というんは、5ランクとか、ランクがありまして、日本語がしゃべれる、どこまで対応できるかという人を選んでやっていけるんですけど、何分行政の申請とかが結構手間取るという部分が正直あるみたいなんです。その辺のことももうちょっと緩和できるのであれば、そういう、向こうから来たいという要望が結構あるということは僕も聞いてるんで、その辺を国にしろ、府にしろ、市にしろ対応していただけたら、介護じゃないですけどね、海外から前来てはったような感じ、農業にも発展していったらうれしいかなと思います。以上です。

○農政副部長 ありがとうございます。児島さんお願いします。

○児島氏 失礼いたします。園部町船坂の児島です。私はこの中で恐らく農業経験が浅いと思います。2012年に園部に引っ越してこさせていただいて、2013年から、このちょっと挟んで隣の下間さんがお住まいの南八田という地域の奥村幹夫さんという方の指導のもと2年間施設栽培を研修させていただきまして、昨年の秋に就農させていた

だいたというような経緯でございます。その際に関しては農政のほうにもかなりお世話になりまして、ありがとうございます。また、野村健さんについては、水稻のほうでいろいろとお世話になっております。ありがとうございます。

皆さんが言われてるような問題点がほとんどかなと思います。私も就農する際に、まず家はどうするのか、農地はどうするのか、ハウスを建てるのであれば、やはり中古のハウスはないのか、そういうようなところがやはり一番問題点でございました。うちの場合は、住居と農地については、個人のつながりでここも使っているよという方がいらっしやっただので、住む場所と農地が手に入ったと。その研修期間と、また引っ越してからサラリーマンとしてしていた期間の間に中古のハウス、誰か譲ってくれる人がいないかというようなことで、要するに住居も農地も中古のハウスやったりとか、農機具であったりとかっていうことは、全て個人で何とかしたというところなんですけれども、その辺が、もし何らか行政の手助けがあればありがたかったのかなという感想はございます。ただ、就農してから指導者の方に非常によく教えていただき、ノウハウというのはすごく勉強になりましたし、また生活費の面でも助成金をしていただいたという点で、これ非常にありがたかったというふうに思っております。この程度ですけれども、以上となります。ありがとうございます。

○農政部長 ありがとうございます。今園部町で営農されておられます3名の方にそれぞれお話をお伺いいたしましたので、農業委員さんの皆さんから何か御意見ございましたら、お願いいたしたいと、聞きたいと思えます。

今もありましたように、法認定の方には、早く、スピーディにいろんな応援ができるようにということも御意見を伺いました。今、意見いただいたのは、ちょうど、渡邊部長からちょうど答弁したら一番ええ内容ばかりやと思いますので、申しわけございませんけど、よろしくお願ひします。

○渡邊オブザーバー 前ふりがものすごい早かった。

若手で3人とも頑張っていておまして、ありがとうございます。下間さんのほうからも出とったように、今後高齢化にともなうて、集落で個人がやるにしろ、どっちにしろ、やっぱりこれ機械化は避けて通れへん話があると思えますので、この辺、6次施策の中で何ら考えていかんなん、もう時期に喫緊にきとるのかなというふうに感じましたんで、そのことは、堤さんのほうからも、児島さんのほうからも出てましたように、やっぱり機械化へ向けての支援、今すごくそれとあわせて課題になってきてますが、いわゆる更新。機械の更新をするときには、1回目補助あっても2回目はないとか、いった課題種々出ております。その辺については、やっぱり行政サイドで見直していかんなんところでもありますとか、国に、やっぱり1つは国としての施策化というのんも言っていかなんと思えますので、国で定めてもらおうと、そのプラスアルファという支援面では、ちょっとやりやすいのかなというふうにも感じております。いずれにしても、やはり地域認定の方に対して、今産地交付金の中でそれぞれの特色に合わせてつくってい



ただいた作物について、推進をかけたるわけなんですけども、その辺も結構ちょっとあつ目にかけてたりしてまして、会計検査を受ける際にちょっと指摘等も受けとるようなところがありまして、従来からつくってます京野菜何かについても、いわゆる出荷していただいとる農家さんについても、大体これ全部で年間8,000万ほど、産地で黒豆をつくってもらったら、その平米数に応じて支援をしたり、こまごまのものを合わせまして、南丹市で大体8,000万程度の、いわゆる交付金をおろさせてもらっとるんですけども、その辺についてもちょっと特色を出していかなん時期にもきとるところがあります。そんなところも含めて、今後ともやっていきたいと思ひますし、これからの若手の農業者さん育ててもらうには、やっぱり迅速であつて、やっぱり機械化を柱とした中での、当然つくってもらふ作物、それがキーにはなると思ひますけども、それに合わせた中での支援ができたらというふうに考えておりますし、堤さんのほうから出てましたように、時期的にはさっきも言いましたように、6次産業化の地産地消推進協議会みたいなものをつくってやっていかなんというふうに、国のほうが絵を描いてきております。国のその施策もなんですけども、やはりその辺で振興する作物をはっきりした上で、やはり先ほど来申し上げてますように、推進していく時期にきとるというふうに認識をしておりますので、その後またいろいろありましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○木村委員 園部のお三方に共通してたのが行政に対する熱い期待の部分が共通してたかなと思ひます。そのとおりでと思ひます。非常に具体的に何が必要だというのはおっしゃっていただいたので、渡邊部長もズキン、ズキンときたかもしれませんが、堤さんがおっしゃった6次産業化は個人では無理っていうのね、本当に我々頭の中に置いとくとあかん話やろうなど。だから、それを受けとめて渡邊部長は戦略化の話であつたり、地産地消の審議会であつたり、部長はおっしゃっていただけてますけども、本当に直ちに28年度から一歩が踏み出せるようにしないと、最初に発言させていただいたときに言いましたように、南丹市何目指してるのかが一つも見えてこない。だから、みんなの気持ちがあつても集まらないということがあると思ひます。そういう意味では、全国的なネットワークもお持ちで、いろんな情報もお持ちですし、逆に若いやる気のある皆様方から、これやろうやないかというのを、やっぱり行政のほうにお声を熱くお伝えいただくのも大事かなと思ひますけども、そういうことがまさに言うてもらえてるような気がいたしましたので、非常によくわかりました。

それとね、2月1日に京都府農業会議の主催だったと思ひますけども、獣害対策の講演がありまして、農業委員の方はもちろんですけども、たくさんの方が聞きに行かれたかもしれませんが、国の機関にお勤めのOBの方がおっしゃってましたけども、エサの問題、だから圃場でいいますと、キコバイを放っておくだとか、それから法面の草刈りは、もう10月はするな、萱系の草はぼーぼー生やしておいたら、あと芽が出てきいひんで、それを生やしておいたら、獣がくるというのが1つ大きかったのと、柵の設

置、あれは電柵もそうなんですけども、やぶから柵までの間と、柵から作物の植わってる圃場との間のスキメをあけるというのが非常に印象的だったんですけど、僕はそれに加えて、村ごと取り込まんと、その1カ所だけでは、もうエサ場になるのは協調されたんがポイントかなと。そのイノウエさんがおっしゃったんは、これはお父ちゃんに言うても一つも村中に広がらへんけども、お母ちゃんに言うておいたら、女性の力で全部村中に伝わるんや言い方なさいましたけど、要するに集落全体で取り組まないとあかんようなことをおっしゃったのが非常に特徴的だったと思います。それはうちのところの村でもちょっとやりたいなと思ってるんですけども、ただ、サルは見つけたら追いかける言わはったんは、ホンマに大丈夫かな思いましたけど、怖いですよ。何かそんなお話をいただきましたので、獣害対策もそういういろんな知恵集めて、これ情報収集しながら本腰入れて、メールも即時発信の御要望、具体的に出てきましたけども、それも含めて本格的に人間のほうから知恵出して追い払うというのか、もうちょっと遠慮していただくようにせんとあかんのちゃうかなと思ってます。

○農政部長 ありがとうございます。農業者の皆さんには一通りお話や御意見をお伺いしたところですが、最後に本日の内容を通しまして、また全般的なことに関して御意見などございましたら、お聞かせ願いたいと思いますので。

○梅津委員 すんません、広報を担当しております。今木村さんのほうから出ました、南丹市の目指すべき方向もですけども、私は農業委員会としての目指すべき方向もなかなか個人的には把握できておりません。したがって、広報を出すにしてもなかなかその辺がどこまで突っ込んで情報を皆さんに公開していったいいものかというのが日々の悩みですけども、農業委員会だより4カ月に1度発行してるわけですけど、地域の情報誌としてのメインは食と農業というものが農業委員会だよりのメインでございますけども、その役割を果たすべく、10名の農業委員で活動してるわけですけども、何か皆様の励みになればと思って情報を提供願っているのが現実ですけども、特に日吉とか八木からはなかなか情報が集まりにくいのが現実ですし、日ごろ気がつかれたことがありましたら、事務局のほうへ遠慮せずにFAXなり電話で言っていただいて、情報の開示をして、市内の一般の方々にも伝えていきたいと思っておりますので、ひとつ皆様よろしく願いいたします。以上です。

○農政部長 ありがとうございます。今もさっきも申しましたように、農業者の方、全般的な事柄につきまして、御意見や何かございましたらお聞かせ願いたいと思いますが。

それでは、農業委員さんの皆さんから何かございますか。

行政からは、たくさんいただきましたけどほかに何かありますか、何か。

それでは京都府農業会議から何かアドバイスがございましたら、よろしく申し上げます。

○西村オブザーバー すんません、大変貴重な意見を聞かせていただきまして、ありがとうございます。私は先ほど言いましたように、農業会議で仕事をさせてもうてますけ

ども、農業委員会の仕事は大きく分けて3つあると。農地行政ですね、農地転用とかそういうことをする。それから荒廃農地を防いだり、担い手の方を応援されたり、どうやって農業をやるか、農業者年金どうやって広めるか、そういう2つ目です。もう一つは荒廃農地をどうやって防いでいくかというのは今言いましたね。それともう一つは、こういった意見ですね、こういった農業者の意見、そういうものを行政に建議というふうに申し上げておりますけども、伝えていくと、または今日はそういった御意見を伺って、それを多分行政のほうに反映されるように農業委員さんにはお伝えいただくと、こういうことになるわけです。ほんで、ちょっとそれに関したことで申し上げますと、御意見もありましたけども、簡単に新規就農者の方が農地を取得できるような、これについては南丹市さんはもう早くから下限面積を1反にされて、条件はあるんですけども、1反にされて、多くのところは3反とか4反なんですけども、それは新規就農者の方が就農しやすいように、土地を得やすいように、土地を所有しないとなかなか投資とかに現金がつかないというようなこともありまして、3反、4反で大き過ぎると、またお金も手出ないということから1反にいち早くされております。それから、空き家があったらええという話なんですけど、これは南丹市さんは、昨年7月から空き家バンクというのを制度を設けられました。これもそういう条件整備をさせていただいております。

それから、鳥獣害については、木村委員さんがおっしゃいましたように、これは克服できるんです。もう来年1年間、1年あったら克服できます。できないのはやらないからなんです。これはできるんです。それはそういう方法があるということをお紹介をしておきたいと思えます。ほんで、私たちの村もちょっと恐縮ですけども、これはイノシシとシカについてはほぼ9割できてます。それはやり方ですね。サルはちょっと無理です。サルは今んとこ手が無いんですけども、シカとイノシシについては、村で完全に、完全って9割ですね、9割ができます、できてます。

それから、もう一つは、いろんな御意見いただきまして、ありがとうございます。大きくすると、もうかる農業という話と、地域をどうやって維持していくか、ここに大体突き詰めたら焦点が当たっていると思えます。篠山さんですね、現職のときから大変村のほうで活躍されておまして、多分御存じないと思えますけど、私はお世話になってるんです。いろんな行事を一緒に手広くですね、外部の方を呼び込んだり、交流をされてる方でございます、ありがとうございます。頑張ってください。今は、農地、農業の高齢化や、「住めない。住めない。」言うて、愚痴を言うような、悠長なことを言うような状況ではございません。農村は。若い方にできるだけ入っていただいて、やるということが大事。そのためにどうしていくのか、今の農業、農村をどうやって維持するのかということと、若い人たちにどうやって残っていただくか、どうやって入っていただくか、もうそこに政策を集中していくことが必要かなというふうに感じています。そのためには、農業委員会さんもお世話になってます、京都府がやられている協力プランという、地域の農業は地域で考えていこうという、こういうプランですね。それ

と、それからありましたけど、情報の共有ですね。随分皆さんおっしゃいました。情報がほしい。そして情報があれば、次は支援策をどうするかという、みんなと話し合う共通の場みたいなもん、渡邊部長のほうでも、そういうものを28年度に計画されているというようなことですので、これを本当に、今言わはった南丹市でどうしていくねんという、どこへ理念を持っていくねんという話については、その辺で議論をしていただいたらいいかなと思っておりまして、非常に期待をしております、私もこうやって勉強させていただいて、農業委員会さんなり、農業者の皆さんの役に立てるようにしたいと、農業会議としても思ってますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○農政部長 ありがとうございました。

それでは、本日子定しておりました意見交換の内容は、これで全て終了いたしました。ここで、事務局から連絡事項がありますので、お願いします。

○事務局 すいません、失礼をいたします。農業者の方々にお知らせをとということでお時間をいただきたいと思います。

皆さんのお手元に農業者年金のパンフレットと農業委員会だよりのほうをお配りさせていただいております。農業者年金につきましては、こういう制度があったのという、知らなかったをなくそうということを取り組みを進めさせていただきたいなというふうに思っております。また御一読いただきまして、こんな制度があるんやな、もうちょっと詳しく聞きたいなということでしたら、お気軽に事務局のほうお声かけいただきまして、また御説明なりさせていただきたいというふうに思っております。また、もう既に加入していただいている方も多くいらっしゃいます。また、その方につきましては、そういったよさを広めていただけたらありがたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あと、農業委員会だよりににつきましては、広報委員長のほうから、先ほど情報をいただけたらありがたいですというお声かけをいただきました。既に誌面を飾っていただいている農業者の方々おいでになります。また、お知り合いの方でもこういったことをされるよということがありましたら、事務局のほう情報いただけたら大変ありがたいなというふうに思っております。また、今後も農業委員会だよりに、委員さんがそれぞれ取材に行かれまして、発行のほうさせていただきたいというふうに思っておりますので、またいろいろ情報提供いただきまして、取材に行かせていただいた際には、また御協力いただけたらありがたいなと思っておりますので、今後とも御協力のほうよろしくお願いいたします。以上でございます。

○農政部長 農業委員会では、そのただいま説明しました事業も行っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日いただきました貴重な御意見は、今後の農業委員会活動に、また生かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は大変ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、南丹市農業委員会農政部会の野村健副部長より、閉会の御挨拶を申し上げます。

○農政副部長 それでは、閉会に当たりまして一言、御礼を含めて御挨拶を申し上げたいと思います。

今日は、長時間にわたりまして、大変御多忙の中、御参加をいただきまして、また貴重な御意見をいただきましたことを厚く御礼を申し上げます。

これまで毎月1回農政部会で議論をしてきておるわけではありますが、何といたしまして、南丹市全域での農地の大きな課題は獣害対策であります。先ほど来話が出ておりましたように、これまで努力をしてきております。相当な予算をつぎ込んでの対策が取られてきております。しかし、今なお獣害がなくなるという現状であります。先ほどもありましたように、サル対策も篠山市との関連でメールが送れるようになったんですが、おっしゃるとおり、リアルタイムつちゅうわけにはいってませんので、そのあたりは改善の余地があるかなというふうに思っております。

また、高齢化に伴う現状のもとで新規に、あるいはIターン、Uターン等で担い手になっていただく場合にも、やはり経営が成り立つということがなければ、これはできないわけでありまして、そういう点での対策についての議論をしてきたわけですが、現実なかなか難しいという現状の中で今日、提供いただきましたそのような課題、しっかり我々も受けとめて、実現の方向に向けて取り組みを進めていきたいというように思います。それぞれの地域で活動をさせていただいてる農業委員がおりますので、直接でも結構ですし、それぞれまた御意見等がありましたら、ぜひお寄せいただきまして、一緒に農業が続けられる、また担い手が増える、こういう状況を実現するために御一緒に努力をしていきたいと思っております。

大変お世話になりました。今後ともよろしくお願いを申し上げます、閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

**午後3時55分開会**

---